

裁判員等経験者との意見交換会 開催概要



裁判員制度



テーマ

裁判員と裁判官が協働して充実した評議をするための方策について



参加者

裁判官2名、検察官2名、弁護士2名、裁判員等経験者6名（裁判員、補充裁判員）



裁判員裁判に参加した全般的な感想

ご参加いただいた皆様、
貴重なご意見を
ありがとうございました。

年齢を理由に辞退しようか迷いましたが、家族の後押しもあって参加しました。様々な年齢・性別の方たちとよい評議をすることができました。家族や知り合いには、もし裁判員候補者として選ばれたら、ぜひ参加した方がいいと伝えています。



さいこちゃん



自分に裁判員が務まるのか不安でしたが、争点が絞られており、議論しやすかったです。また、専門家の方からも話を聞くことができ、とても良い経験になりました。国民の意見を反映させることで、裁判がより良い方向に向かうのではないかと思います。



事件の内容を知った時には不安でしたが、図や写真が白黒にしてあったり、凶器が手作りの模型だったりといった配慮がされていて、怖いという感じはなかったです。意見を言えるのか心配でしたが、争点の説明やほかの裁判員の皆さんの意見を聞く中で、自分の考えを持つことができました。

初めは、法律の知識が全くない自分が人を裁いてもいいのか葛藤と不安でいっぱいでしたが、裁判員の皆さんと議論を重ねるうちに不安が解消されました。法廷での審理よりも評議の時間の方がはるかに長く、とても丁寧に評議されているということを知りました。



法廷での審理及び評議について

法廷のモニターに資料やイラスト、写真が映され、とても分かりやすかったです。



検察官も弁護人も、裁判員に分かりやすい言葉で説明してくれました。被告人の人物像や事件の動機、背景、被告人が罪を犯すまでの心情などについて詳しく説明があり、自分が同じ立場だったら、どのような気持ちになり、どのような行動を取るのだろうと想像することができました。

検察官の資料は、字の大きさや色づかいが見やすく、事実が時系列で記載されており、とても分かりやすかったです。文章を羅列しているだけの弁護人の資料は少し読みづらく感じました。検察官の話し方は、テレビドラマを見ているのではないかと錯覚してしまうほどで、聞き入ってしまいました。

専門家の証人の話に専門的な言葉が多く、審理中、その場では理解できないことがありました。もう少し分かりやすい言葉で説明をしてもらえるとよかったですと思います。

人の人生を左右するかもしれないという思いもあり、最初のうちは自分から手を挙げるのが難しかったのですが、裁判官から「何番さんどうですか」というように聞いてもらえ、意見を言いやすくなりました。

一番悩んだのは量刑でした。今回の事件では何年が適正なのか、目安は示されたものの、自分の物差しがない中で決めなければいけないということがとても難しかったです。

裁判員の意見を引き出してくれるような裁判官のアドバイスがとても参考になりました。

最初は皆さん緊張していたようでしたが、日を追うごとにリラックスした雰囲気になり、ワンチームになれたと感じました。それぞれの裁判員が自分なりの意見を一生懸命述べ、それを全員が受け止めるという形で議論できていたと思います。

